

彼らの夏、私たちの夏。

高校球児、夢の舞台…甲子園。

選手たちの軌跡は、多くを語るまい。
彼らにのみ許されたすばらしい経験、
感覚を味わったに違いない。

この夏、あの瞬間。
私たちにとって甲子園とは、
何だったのだろうか。

少し、夏の思い出にひたつてみよう…。



杵築高等学校校歌

両子の高嶺 由布の峰
その影うつす 豊の海
山水秀麗の 気と受け
宇宙の妙理を 極めゆけむ
厚生利用を 努めげむ
偉人傑士の 跡よみて
吾等我が友 もろともに
向上的途 たどらまむ

人文日々に 進みゆく
吾が日本の 青年に
望むところは 偉大なり
花朝月夕 泉の間も
知徳を修め 身を鍛ひ
錦江の水 東に
流れで止まぬ 心もて
理想の光 仰がむ

藤井 専隨 作詞
松崎定太郎 作曲
(明治42年)

8月9日、対・常総学院高等学校(茨城県代表)で
杵築高校に声援をおくる1塁側アルプススタンド

